



感動価値創造 magazine Xi[sài]

2024

07



メンテナンスのDX化を実現する新しいアプリケーション 「メンテナンスマネージャー」

私たちの業界は、成功を維持するためのDX化によって、ここ数年で大きく進化してゆきます。機械メンテナンスというニッチな部分でも、デジタル時代の潮流に適応した新しいやり方が必要になります。これまでのように紙やエクセルで作られた印刷機のメンテナンス表を、メンテナンスのDX化を実現するハイデルベルグの「メンテナンスマネージャー」を利用することでメンテナンスを効果的かつデジタル的に管理できます。

製造業である以上、機械のメンテナンスは、日々の生産において機械の突然の故障やそれに伴う突発停止などをなくすためには不可欠です。しかし、一言でメンテナンスと言っても、いつ、どのように、

どれくらいの時間をかけて、どこをメンテナンスすれば良いのか。また、社内共有の方法や過去の記録など、それらを適切なタイミングで正確に実行するのは簡単ではありません。そうした複雑なメンテナンスを簡素化し、メンテナンスのDXを実現するのが新しいメンテナンスマネージャーです。

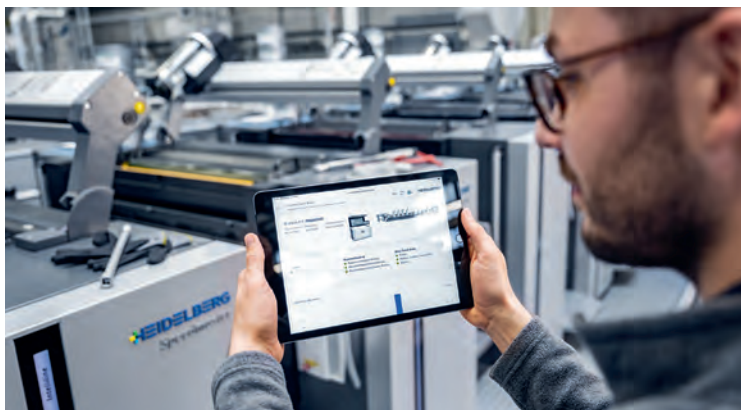
メンテナンスマネージャーでは、すべての情報はデジタル化され、PCやタブレットで、いつでもどこでも見ることができます。メンテナンスの予定日は自由に設定でき、実行すれば次回の予定日もシステムが自動作成してくれます。メンテナンス記録を残すことも、また、その情報を社内でもシェアすることも、簡単に実行することが可能です。

主なメリット

- メンテナンスのPDCAをアプリで行うことで紙やエクセルは不要
- 自社のオリジナルや、これまで実践してきたメンテナンス項目を登録可能
- 独自のマニュアル画像や動画をアップすることが可能
- DX化されたメンテナンスによりクライアントからも高評価が得られる
- メンテナンスが標準化され、作業負荷と計画外のダウンタイムを約20%削減可能（数値はサンプル評価でありお客様により異なります）

動作環境・条件

- ・ハイデルベルグカスタマーポータル
の運用、および契約が必要
- ・カスタマーポータルにプリネクトシ
ステムの連動が必要
- ・メンテナンス担当者がカスタマーポ
ータルにアクセスできることが必要
- ・使用場所でインターネットへの接続が
必要
- ・2010年以降に製造されたハイデル
ベルグ印刷機が対象



導入事例はこちら▶



お問い合わせ先

ハイデルベルグ・ジャパン株式会社
ライフサイクルソリューションズ本部
TEL: 03-5715-7185

ハイデルベルグ・ジャパン株式会社

〒140-8541 東京都品川区東品川3-31-8 TEL(03)5715-7377 www.heidelberg.com/jp

LITHRONE GX/G

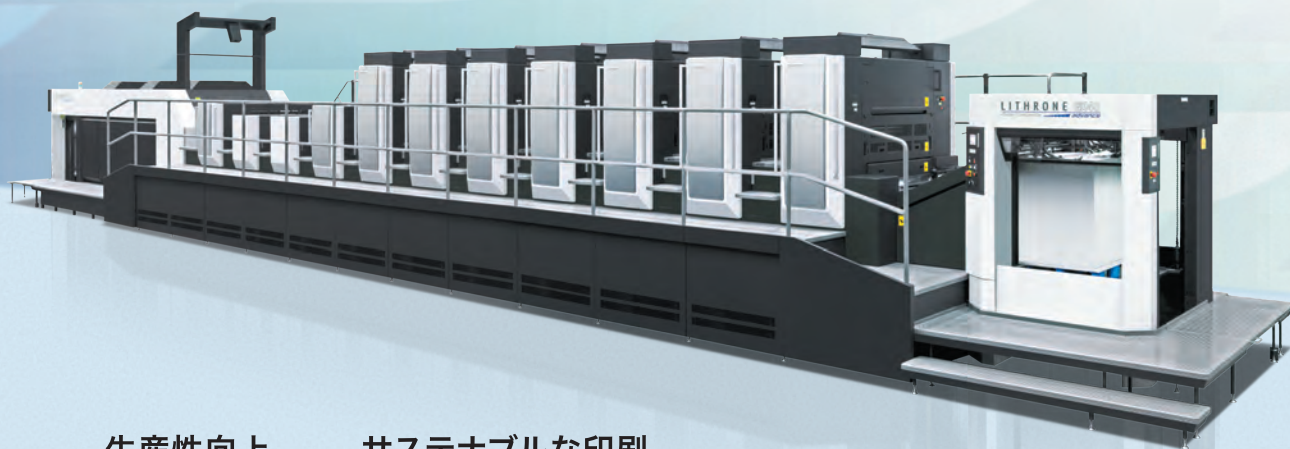
advance

EX Edition

リスロンGX/Gアドバンス EXエディション 生産性とサステナビリティの新基準

世界最高クラスのROI*1を誇り、全世界での導入が進むオフセット枚葉印刷機、リスロンGX/Gアドバンスシリーズ。KOMORIはさらなる生産性向上とサステナブルな経営を実現するため、革新的な新機能を搭載した新しいリスロンGX/Gアドバンスシリーズを開発しました。最新のプリントテクノロジーを駆使し、エネルギーコストの抑制と印刷オペレーターの作業効率向上を実現するリスロンGX/Gアドバンスシリーズは、ビジネスを新たな次元へと引き上げます。

*1 投資収益率 (Return on Investment)



生産性向上



サステナブルな印刷



Photo: GLX-740A
※写真のモデルはオプション仕様を含んでいます。

KOMORI

株式会社 小森コーポレーション

〒130-8666 東京都墨田区吾妻橋3-11-1 Tel. 03-5608-7806(代表)

おクルマのご購入をお考えの皆様へ!

お車購入の際は
事前にご一報ください。

東京海ジョー



- 全メーカー・全系列対応します!
- 商談後にお断りになることも自由です!
- 日頃付き合いのあるディーラーでもOK!
- 新車・中古車どちらもご相談ください!



自動車販売店とご商談を開始する前にご相談ください。



東京海上日動 車両情報センター フリーダイヤル ☎ 0120-086-590

※営業時間 9:00 ~ 17:00 土日祝日休業 ※全印工連の組合員である旨お申し出ください! 併せてご連絡先、購入希望の車種などお伝え下さい。

あなたのための、DXでありたい。

DXという言葉がなかった時代から、
デジタルでビジネスの仕組みを変えてきた大塚商会。
テレワークやAIの活用、紙文書の電子化など、
新しい働き方を時代に先駆けて自ら取り入れ、
体感し、お客様に提案してきました。
あなたのビジネスの現場で、
ほんとうに役に立つ生きたソリューションを。
それが、大塚商会のめざすDXです。

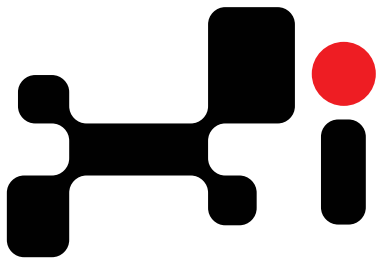


あなたのビジネスに、大塚商会の提案力と対応力を。
<https://www.otsuka-shokai.co.jp/dx/>



 大塚商会

株式会社大塚商会 東京本社:〒102-8573 東京都千代田区飯田橋2-18-4 札幌・仙台・名古屋・京都・大阪・神戸・広島・福岡



CONTENTS

インタビュー／この人に聞きたい 株式会社モリサワ 代表取締役社長 森澤彰彦氏 ……	6
「令和6年度 通常総会」を開催 ……	12
令和6・7年度 全印工連理事のご紹介 ……	12
共創パートナー企業 ソリューション提案「ともに創る印刷の未来」 ……	16
工組紹介 埼玉県印刷工業組合 ……	17
全青協ページ ……	18
労務 雇用保険制度 現在の制度と今後の主な見直し内容について(1) ……	19
名刺広告 ……	20



[本号の表紙]

リニューアル後、第二号となる本号の表紙は埼玉県草加市の名産品である「草加せんべい」を取り上げました。うるち米を原料に用い、硬めに焼き上げるのが草加せんべいの特徴とされています。

その発祥は、米を蒸し、つきつぶしたものを干し、焼いて食べる、保存食や陣中食であったものに、江戸時代に草加近郊の野田などで作られるようになった醤油を塗って焼くようになったものとの説があります。日光街道の宿場であった草加で、道中の間食として好まれ、軽量であったことから人気だったと言われています。また、草加宿の茶屋で団子を売っていた「おせんさん」という女性が、団子を平たくつぶして焼餅として売り出したものが起源という俗説もあります。

次号以降も本誌の表紙は、各都道府県工組の紹介ページと連動して、各地の名産品や伝統工芸品などを紹介していきます。

NO.723

令和6年7月10日発行（毎月1回10日発行）昭和44年4月26日第三種郵便物認可 発行人／瀬田章弘 編集人／高橋秀明 発行所／全日本印刷工業組合連合会 〒104-0041 東京都中央区新富 1-16-8 TEL.03-3552-4571 (代) FAX.03-3552-7727
<https://www.aj-pia.or.jp>

本誌では、本文に(株)モリサワのユニバーサルデザインフォントを使用しています。



聞き手：

全印工連常務理事

関野里美氏

(セントラル印刷株式会社 代表取締役)

株式会社モリサワ

代表取締役社長

森澤彰彦氏

文字とともに 100 年を刻む

挑戦と変化に挑み続け、

未来をつくる

株式会社モリサワの創業者、森澤信夫氏らによって、世界で初めて邦文写真植字機を発明されてから今年で100年になる。この間、技術革新により同社が扱う製品やサービスは大きな変貌を遂げた。人間にとって普遍的な“文字”を中核に据え、時代の要請とともに事業のカタチを変えてきたからこそ、100年という時を刻むことができたのだろう。「文字を通じて社会に貢献する」という社是を土台に変化にチャレンジし続ける同社 代表取締役社長の森澤彰彦氏に話を伺った。

邦文写真植字機の発明から “文字、中心の事業体へ”

関野 モリサワさんは時代の変化の流れをつかみ、はっきりと立ち位置を作り上げて価値を生み出してこられました。私たちは受注体質から抜け出さなければいけないし、価値を生み出す必要があるのですが、時代の変化に沿ってどう価値を作り出してきたのか、今日はそのエッセンスを頂きたいと思います。

邦文写真植字機(写植機)の発明から100周年を迎えるという長い歴史の中で、森澤社長が子供のころに感じた「モリサワ」という会社のイメージはどのようなものでしたか。

森澤 私の父(故・森澤公雄氏)が兵庫県明石市で、手動写植機に使われる文字盤製造部門のモリサワ文研という会社を経営しており、その隣で育ちました。自然と子供

の頃から文字に興味を持つことができ、当用漢字の辞書を楽しんでいるうちに、小学校に上がるぐらいには辞書の漢字をだいたい読めるようになっていましたね。

関野 それはすごいですね! 幼い頃には現場にも行かれたのですか。

森澤 現場には入らなかったのですが、創業者で手動の邦文写植機を発明した祖父(故・森澤信夫氏)が家の中で実験するのを見ていました。機械屋の性なのでしょう。四六時中、頭の中がそればかりのようでした。

関野 お父様も同じような方?

森澤 いいえ。父は機械屋ではなかったもので、どちらかというと文字のデザインと文字盤の改良に力を入れていました。

関野 おじい様が写植機を発明し、お父様が文字を作り、その土台があって今の時代へと進んできたのですね。

森澤 祖父は作家の星新一さんのお父様が経営してい

た星製菓の印刷部で働いていました。外遊から帰ってきた星製菓の当時の星社長から、「組み立ててみる」と活版高速輪転機的设计図と完成写真を渡された祖父は、印刷機を組み上げてしまったそうです。それから印刷部門を任されたのですが、ひと文字ずつ活字を拾う文選工の重労働を合理化してなんとか楽にできないか、と考えてタイプライターとカメラを合体させたような写植機を作りました。星製菓には祖父の13歳年上で、石井茂吉さんという高級技師の方がいらっしゃいました。のちに写研を創業する方です。祖父が石井さんに写植機のこと色々相談したところ、「すごいアイデアだ。権利を守るために特許を取った方が良い」とアドバイスを受け、1924年に二人の名前で特許を申請しました。それが今から100年前のことです。

関野 すごいストーリーですね。そうしたお話はおじい様から直接お聞きしたのですか？

森澤 そうです。祖父は100歳まで生きましたので、子供の頃からはもちろん、会社に入ってから昔話を良く聞きました。創業者と一緒に住んでいたというのと、家の隣が会社で文字を作っていたのがやっぱり大きいんじゃないですかね。

関野 100歳まで生きられたおじい様、すごいですね。小さい頃、ご実家のお仕事は何屋さんだと思っていましたか。

森澤 全くわかりませんでした(笑)。「モリサワ」という銘板が貼られている機械があって、そこにはめ込む文字盤があって・・・機械に触ったら怒られますし。実は今も何屋さんか難しいのですよ。一般の方たちに「文字を作っています」というと「はあ?」と言われるからね。

関野 その「文字」を通じて社会に貢献する、という社をお持ちですよね。

森澤 「文字を通じて社会に貢献する」というのはモリサワが法人化した時に、当時社長だった森澤嘉昭現相談役が考えました。モリサワの将来を予測していたのかというぐらい、今、私たちが目指しているところにぴったりと当てはまるんですよ。写植機ではなく文字ですから。

関野 文字は伝達ツールとしてなくならないですよ。

森澤 ガラケーだった時代に、買収した米国企業の技術を使って、ほとんどの日本メーカーの携帯電話にモリサワのアウトラインフォントが採用されましたが、スマートフォンの時代になってガラケーといわれる携帯電話が縮小していきました。でも、今もその技術は使われていますよ。例えば、テレビやブルーレイレコーダーには電子番組表

が付いていますよね。あれには二カ国語放送だったら四角に“二”と書いた特殊な外字が必要です。JIS規格ではなく、放送業界専用のアウトライン化された ARIB という外字です。TV チューナーが付いたガラケーに採用されていたものが、今は様々なデバイスに採用されています。

アドビとの業務提携へ ターニングポイントの DTP 時代

関野 森澤社長はいつ、どういう経緯でモリサワさんに入社されたのですか？

森澤 その当時、写植機メーカーとしてのモリサワを脅かすようなワープロや電子組版機などが出てきて、変革期というか、モリサワが激動の時代に入るところでした。その変化を見た方が良いということで、1986年に大学を卒業してすぐに入社することになったのです。



入社した年の12月、まだ研修中の時に役員会に呼ばれました。そこで「アメリカのベンチャーとビジネスすることになったから、アメリカに行ってこい」という辞令が出ました。その時は、えっ! という感じでしたよ。翌年に渡米して行った会社がアドビ(当時アドビシステムズ)でした。

ようやく電算写植機からレーザー出力機に出力できるようになったときに、アドビは小さな Macintosh を使って PageMaker というソフトウェアでページネーションして、スキャナで画像を取り込んで、いとも簡単にレイアウトをやっているわけですね。それが非常に衝撃的でした。しかもプリントボタンを押せばネットワーク化されたレーザープリンタで、比較的きれいなゲラが出てくる。

関野 入社されてから、だいぶ早い時期に危機感を持たれる体験があったんですね。

森澤 逆に印刷やプリプレスのことを知らなかったから良かったと思うんです。入社2年目の素人の目には何もかも新鮮でした。その後、日本も本格的な DTP 時代に入り、電算写植機が本格化したのが1980年からなので、その寿命は20年強でした。

関野 今振り返ると結構短かったんですね。

森澤 イノベーションのジレンマという言葉があります。トップを走っている企業はどうしても新しい技術をキャッチアップしようとしませんよね。自分たちの技術の高度化に傾注した末に、顧客の要望を超える機能をつけてニーズとかけ離れてしまうことが起こりがちです。

関野 メディアの主力だった印刷を扱う私たちにとっても耳の痛い話です。

森澤 今の相談役(森澤嘉昭氏)は、社長だった時に手動写植機から手を引きました。電算写植機へと向かう中でラインタイプと組んで、その出力機に我々のソフトウェアとフォントを載せて販売するという道を選び、さらに DTP の時代も早い段階からアドビと組んで新しい技術を取り入れていきました。欧米の企業の DTP とは何かを目の当たりにして、日本もやがてそうなるだろうという予測のもとにです。

関野 20年先を見越しての方針転換だったんですね。

森澤 ただ、それは結果論であって、相談役も「まさか DTP がここまでになるとは思っていなかった」と言っていました(笑)。

関野 きっのご謙遜でしょう。それで帰国したあとは?

森澤 アメリカから戻ってきて、お客様や印刷組合に DTP について説明して歩くのですが、印刷も製版も知らないし、印刷会社の方たちに「モリサワさんは所詮、写植機メーカーでしょう」と言われるわけです。それで東京の印刷会社さんで3ヵ月ぐらい研修に入って、写植から製

版、刷版、印刷、断裁、製本の工程を見せて頂いて勉強しました。最後に自分で1ページ作ろうかということになって、スキャナで画像を分解して集版し、PS 版に焼き付けるところまで作業させて頂いたところ、そこまでの工程で生じたフィルムがもの凄い枚数になってしまいました。それを見た時に、イメージセッターならば4枚で済むのにと。かかったコストを聞いた時に、絶対に DTP の時代が来ると確信しました。

フォントのサブスク戦略 顧客が価値を認めるか

関野 印刷業界は長らく価格での競争を繰り広げてきました。それではダメなので、全印工連では価値の協創をしていこうという方針を立てています。しかしながら、その道のりは険しいと思います。大変失礼かもしれませんが、モリサワさんの「MORISAWA PASSPORT」(※現在、サービスはクラウド型の「Morisawa Fonts」に移行中)の更新の時には、「またお金がかかるんだ」と思っていました。どうやってその価値を認めてもらっているのですか?

森澤 材料メーカーさんにヒントを得たんですよ。材料メーカーから消耗品ビジネスは需要予測が立てやすいと聞いたのです。私たちは機械メーカーなので、毎月毎月が勝負です。材料は一度採用されると、去年このお客様がこのぐらい使っていたからと今年の需要が読めます。それを聞いた時に、あつ!と思いました。うちは決算月が近くなるとキャンペーンと言って割引を乱発して売るわけです。お客様もその頃になれば安く買えると分かっているから、余計にひどくなっていく。うちも需要予測ができて、安定して収益が上げられればと、年間契約で色々なフォントを使って頂ける形態を考え、大きく方向を転換しました。

関野 先日、モリサワさんのサイトに載っている『モリサワフォントができるまで』の動画を拝見した時に、フォントを作るのって、大変なんだということを知りました。これってむしろ安くない? みたいに思えてきたのです。これだけのサービスが使えて、しかも毎年アップデートされていて、使わせて頂いてありがとうございますと言いたいぐらいです。私たちもお客様にそう思われたいですし、価値を認識してもらうことが重要なのだと感じました。

森澤 お客様からは「フォントって高い」と昔から言われてきました。電算写植機の出力装置用で1書体400万円



という時代もありましたし、それが2千書体以上も入って月額6万4千円ぐらいですからね。

関野 そうそう。その動画を見ると、本当に失礼しました! っとなります(笑)。

森澤 印刷業界以外から「文字ってどう作るのですか?」というお問合せを多く頂いていることが動画を制作した大きな動機です。印刷業界は当然、私たちのメインのお客様ですが、当社は自治体や学校、一般企業にもフォントを販売しています。営業担当者がそうしたお客様と話をすると「フォントってWindowsに入っているやつですよ。それ以外に必要なんですか? そもそもフォントって買うんですか?」と聞かれるケースが少なくありません。「文字は買うもの」という文化がないんですよ。

関野 そうしたお客様の対象となるフォントはやはりUD(ユニバーサルデザイン)フォントですか?

森澤 そうですね、UDフォントが主力になります。印刷を下さいといっても買って頂くのが難しいのと同じで、単純にフォントを使って下さいというビジネスが難しい領域です。そのような中でも当社のUDフォントは、第三者機関と共同でロービジョンやデジタルデバイスにおける可視性・可読性の比較研究を実施して、読みやすさ、判別のしやすさに関するエビデンスを取得しています。私たちが培ってきた組版の技術を活かして、伝わるようなレイアウトとともに提案しに行っています。

関野 UDフォントの需要が高まっていて、私たちの業界でも力を入れていきたいのですが、どうすればお客様にご採用頂けるかが悩ましいところです。伝えたいだけではなく、伝わり方をきちんと考える必要がありますよ、というポイントを説明されているのですね。

森澤 モリサワ1社で日本全国の企業や自治体に対し、こうした展開をやり遂げることはできません。この辺で、印刷会社の方々とフォントの良い見せ方について連携できればと考えています。

関野 フォントって文字として読むだけではなくて、目に入ってきたイメージが体に染み込むというか。

森澤 英語の表現はうまいなと思います。「font」とはデジタル化された書体です。でも、書体は英語で「typeface」と言うんですよ。文字の顔です。

関野 なるほど。文字の顔なんですね。

森澤 だから、優しいようなフォント、怖そうなフォント、真面目そうなフォント、華やかなフォントと、場面ごとに使い分けができるのです。



関野 本当に……。ロゴをぱっと見て感覚的に何の会社か想像できることがあります。

森澤 しかし、普段からフォントの使い分けに慣れていない方の場合、目的やイメージに合わせたフォントを選ぶのに苦労するという声も聞きます。当社からは、フォントの持つ表情をうまく活かして、効果的な使い方をすれば、情報が相手に伝わりやすくなることをお知らせするようにしています。

関野 まさに伝わりやすさや使い方にフォントの価値があるんだと思います。

フォントがなくなる危機感 だからこそその「+α」のビジネスを

関野 モリサワさんのフォントは印刷に限らず、ゲームやサインージ、電化製品などあらゆる場面で必要とされていますね。

森澤 フォントを中心に、グローバルカンパニーと言われる企業とのビジネスも生まれています。フォントが使われるシーンがそれだけ広いこともありますが、用途や利用環境によってさまざまな仕様が求められることに対して、当社はそれぞれのニーズに合うように提供させていただいているので、お声がけいただいているという感じです。

関野 人口が減少していく日本で、あらゆる企業が今後、国内で事業領域を広げるのは難しくなります。日本語を使う人口も増える要素がない中で、モリサワさんが海外市場に向かう理由は何ですか?

森澤 海外市場というと当社の場合、2つの方向性があります。1つは、国内のグローバルカンパニーと共に海外

市場へ出ていくパターンです。これにおいては、どれだけの言語を提供できるかが求められてきます。いくら国内市場でナンバーワンであっても、ワンストップで多言語を提供できなければニーズに応えることはできないので、現在、モリサワでは150を超える言語のフォントを提供しています。

2つ目は、非アジア圏のグローバルカンパニーのアジア市場への展開をサポートするパターンです。2022年に台湾の Arphic Types を子会社化したことで、日本語・中国語を中心としたアジア圏のフォントのワンストップでの提供が、より強化されたといえます。

関野 様々な領域に事業を展開されていますけれども、これからどのような事業、ビジネスの転換を考えていますか？

森澤 自分たちの置かれている環境や、テクノロジーの変化には結構敏感ですね。フォントの提供形態がインストール型の MORISAWA PASSPORT からクラウド型の Morisawa Fonts に移行しましたが、その中に AI の技術を盛り込もうとしています。お客様にとってのベストな情報、トレンド情報を提供できるプラットフォームとして、サゼッションができるサービスを目指しています。一方で、生成 AI などテクノロジーの発展やデザインを取り巻く環境の変化には敏感に対応していく必要があると感じていると同時に、危機感もあります。

関野 生成 AI によってフォントを買うという時代ではなくなる可能性があるかと・・・。

森澤 あり得ることです。それはフォントの価値が変わるということであり、そうなればフォント単体でのビジネスが難しくなります。ですから、「フォント+α」をいかに作っていただけるかが、私たちの次の大きな課題です。

関野 そんな先の課題を見据えているのですね。全印工連でも昨年、2050年に印刷業界がどのようになっているのか、SF プロトタイプを用いて将来の姿を想像しました。ワクワクするような将来像を描いて、バックキャストイングしていきましょうという提言です。森澤社長は、次代を担う社員さんに対して将来に対する危機感を話したりするのですか。

森澤 社長に就任して最初に話したのが「今ここにある危機」でした。今、フォントメーカーとしてトップを走っているかもしれないけれど、技術が変わると分からないよ、というメッセージです。

関野 変わるためにはチャレンジすることが必要です。一方で取り組んだことを続けることに価値があると思いが

ちなのですが、ダメならやめる決断も必要ですよ。モリサワさんは結構、チャレンジされていますよね。

森澤 失敗も当然多いです。ダメだったらやめて、他の方法を考えることにしています。新しいことへのチャレンジは、収益が上がっているうちしかできないんですよ。儲かったからといって、食べて、飲んで、遊んでしまうと手元に何も残りませんから。

関野 AI など技術の進展が激しいですが、これから目指すところは？

森澤 国内のマーケットの拡大と、海外市場でのプレゼンスの向上ですね。そうは言っても、良く社内と言うんですけど、「マザーマーケットは印刷だぞ」と。モリサワは印刷業界のニーズに応じてきたことによって鍛えられ、次の展開が可能になりました。多メディア展開もその一つです。そうした次のマーケットに対して、印刷会社の方たちと Web フォントなどの提案を一緒にできればと考えています。

関野 私たちはまだまだ多メディア展開の勉強が足りないので、お手伝いいただけると心強いですね。

森澤 皆さんが気づいていないだけで、印刷業って大きなポテンシャルを持っていると思うんですよ。それは正確に、間違いなく、伝えやすく情報を加工できるという点です。その経験値は、紙だろうが、デジタルメディアであろうが求められる価値です。どんどん新しいメディアを取り込めると思うのです。

関野 お客様も「印刷会社」という名刺を出すと、紙の印刷しかやっていないと思われる方が多いので、ウェブサイトも作れますよという「そうなんだ」というリアクションが返ってきます。そこをひっくり返していかないと。自治体や学校などデザインに困っている市場に対して UD フォントや Web フォントを使ってモリサワさんと一緒にビジネスができれば良いですね。

今日は、モリサワさんが技術革新の荒波の中で、“文字”という普遍的な価値を通じて、様々なことにチャレンジし続けてきたことが分かりました。時代の変化を機敏に察知して未来を想像し、新しい製品やサービスを提供されているところは、全印工連が示したバックキャストイングの考え方にも共通するものだと感じます。その根底にあるお客様のニーズを絶えず意識していくところに受注体質からの脱却のヒントが隠されている気がします。貴重なお話をありがとうございました。





Morisawa Fonts

文字とつながる。世界がひろがる。



フォントのサブスクリプションサービス

豊富な書体ライブラリー / 複数デバイスでの利用 / 簡単なフォントインストール

morisawafonts.com



モリサワ

「令和6年度通常総会」を開催

— 瀬田章弘氏が新会長に就任、新体制スタート —

全日本印刷工業組合連合会は、去る5月27日（月）に東京都千代田区丸の内の中の東京會館にて令和6年度通常総会および理事会を開催し、令和5・6年度事業ならびに収支予算などについて審議し、すべての議案が承認可決された。また任期満了に伴う役員改選が行われ、瀬田章弘氏が新会長に就任した。

鳥原副会長の開会挨拶から始まり、議長が選任され、通常総会の成立を宣言し議案の審議に入った。上程議案はいずれも原案通り承認された。また、総会を一時中断して開催された理事会では常任理事の選任が行われ、滝澤光正氏に代わり、瀬田章弘氏が新会長に選任された。

理事会後、瀬田会長の挨拶および新常任理事の紹介が行われ、各委員会委員長より今年度の委員会事業計画が述べられた。

引き続き、各種顕彰状・表彰状の贈呈式と来賓紹介の後、経済産業省商務情報政策局コンテンツ産業課の渡邊佳奈子課長より祝辞が述べられた。

最後に橋本副会長より閉会の挨拶があり、総会を終了した。



令和6・7年度 全印工連理事のご紹介

令和6年度通常総会において役員改選を行い、令和6・7年度の理事を選任した。以下、全理事を顔写真付きで紹介する。



会 長

瀬田 章弘

東京都印刷工業組合
理事長
弘和印刷(株)



副 会 長

酒井 良輔

愛知県印刷工業組合
理事長
知多印刷(株)



副 会 長

橋本 唱一

東京都印刷工業組合
副理事長
文唱堂印刷(株)



副 会 長

高本 隆彦

大阪府印刷工業組合
理事長
大興印刷(株)



副 会 長

福田 浩志

東京都印刷工業組合
副理事長
(株)ウエマツ



専務理事

高橋 秀明

東京都印刷工業組合
専務理事
全日本印刷工業組合連合会



常務理事

中本 俊之

広島県印刷工業組合
理事長
(株)中本本店



常務理事

江森 克治

神奈川県印刷工業組合
顧問
(株)ココラボ



常務理事

岸 昌洋

北海道印刷工業組合
理事長
(株)正文舎



常務理事

大洞 正和

岐阜県印刷工業組合
理事長
大洞印刷(株)



常務理事

小島 武也

東京都印刷工業組合
常務理事
(株)武揚堂



常務理事

田畠 義之

東京都印刷工業組合
副理事長
(株)久栄社



常務理事

武部 健也

兵庫県印刷工業組合
理事長
大和出版印刷(株)



常務理事

富澤 隆久

東京都印刷工業組合
副理事長
富沢印刷(株)



常務理事

浜田 彰

東京都印刷工業組合
常務理事
(株)アーチ・イメージング



常務理事

大風 亨

山形県印刷工業組合
理事長
(株)大風印刷



常務理事

宮崎 佳昭

香川県印刷工業組合
理事顧問
(株)ミヤプロ



常務理事

依田 訓彦

山梨県印刷工業組合
理事長
(株)少国民社



常務理事

坂本 研一

熊本県印刷工業組合
理事長
(株)九州クラフト工業



常務理事

関野 里美

東京都印刷工業組合
常務理事
セントラル印刷(株)



常務理事

今野 均

宮城県印刷工業組合
理事長
(株)ユーメディア



常務理事

木村 崇義

東京都印刷工業組合
常務理事
(株)ソウブン・ドットコム

令和6・7年度
全印工連理事のご紹介



理 事

松本 隆史

茨城県印刷工業組合
理事長
富士オフセット印刷(株)



理 事

倉田 英彦

長野県印刷工業組合
理事長
中外印刷(株)



理 事

白田 真人

東京都印刷工業組合
参与理事
(株)アドピア



理 事

小山 研一

栃木県印刷工業組合
理事長
(有)赤札堂印刷所



理 事

岩井泰次郎

静岡県印刷工業組合
理事長
日本レーベル印刷(株)



理 事

滝澤 光正

東京都印刷工業組合
参与理事
滝澤新聞印刷(株)



理 事

石川 靖

群馬県印刷工業組合
理事長
朝日印刷工業(株)



理 事

箕浦 靖夫

愛知県印刷工業組合
副理事長
名鉄局印刷(株)



理 事

澤田 義治

青森県印刷工業組合
理事長
不二印刷工業(株)



理 事

恵 勇人

埼玉県印刷工業組合
理事長
(株)埼京印刷



理 事

山口 史高

三重県印刷工業組合
理事長
四日市印刷工業(株)



理 事

菊池 忠彦

岩手県印刷工業組合
理事長
(株)菊忠印刷



理 事

村山 勝己

千葉県印刷工業組合
理事長
(株)崑崙印刷



理 事

須垣 貴雄

富山県印刷工業組合
理事長
富山スガキ(株)



理 事

五十嵐友和

秋田県印刷工業組合
理事長
(株)アイ・クリエイト



理 事

古木 直人

神奈川県印刷工業組合
理事長
(株)連合社印刷



理 事

小杉 善文

石川県印刷工業組合
理事長
(株)金沢シール



理 事

佐久間信幸

福島県印刷工業組合
理事長
(株)日進堂印刷所



理 事

遠山 亮

新潟県印刷工業組合
理事長
(株)DI Palette



理 事

小川 賢一

福井県印刷工業組合
理事長
小川印刷(株)



理事

中村 寿志

滋賀県印刷工業組合
理事長
明文舎印刷商事(株)



理事

味野 浩一

岡山県印刷工業組合
理事長
シンコー印刷(株)



理事

真崎 俊夫

佐賀県印刷工業組合
理事長
(株)音成印刷



理事

爲國 光俊

京都府印刷工業組合
理事長
(株)ティ・プラス



理事

藤田 良郎

山口県印刷工業組合
理事長
瞬報社写真印刷(株)



理事

岩永 寛毅

長崎県印刷工業組合
理事長
(有)三省堂印刷所



理事

山本 素之

大阪府印刷工業組合
副理事長
(株)美生社



理事

松下 浩

徳島県印刷工業組合
理事長
(株)松下印刷



理事

平岩 照正

大分県印刷工業組合
理事長
(株)佐伯コミュニケーションズ



理事

近東 宏佳

奈良県印刷工業組合
理事長
共同精版印刷(株)



理事

島 啓

香川県印刷工業組合
理事長
マルシマ印刷(株)



理事

村川 保訓

宮崎県印刷工業組合
理事長
宮崎紙工印刷(株)



理事

清水 雅司

和歌山県印刷工業組合
理事長
清水印刷(株)



理事

阿部 国弘

愛媛県印刷工業組合
理事長
愛和印刷(株)



理事

岩重 昌勝

鹿児島県印刷工業組合
理事長
(業)ユニカラー



理事

田村 仁美

鳥取県印刷工業組合
理事長
総合印刷出版(株)



理事

楠 淳一

高知県印刷工業組合
理事長
弘文印刷(株)



理事

平山 達也

沖縄県印刷工業組合
理事長
(株)ヒラヤマ



理事

渡邊 学

島根県印刷工業組合
理事長
(有)高浜印刷



理事

原 健之

福岡県印刷工業組合
理事長
福博総合印刷(株)



理事

西岡 天芳

全国青年印刷人協議会 議長
大阪府印刷工業組合
新星印刷(株)

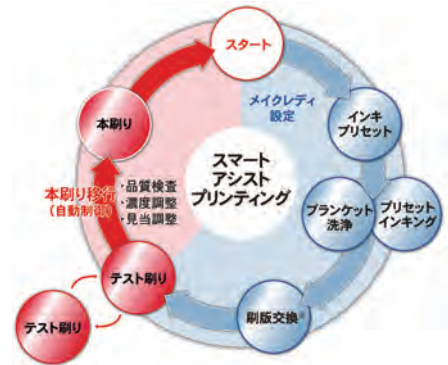
ともに創る印刷の未来

リョービ MHI グラフィックテクノロジー株式会社は、印刷オペレーターの負担を軽減する自動印刷や自動搬送ロボット (AGV) による印刷用紙や印刷物の搬送作業の自動化など、印刷オペレーションの自動化・省力化に寄与する開発に取り組んでいます。

また、IoT を活用して稼働状況の可視化を促進し、生産工場の改善案につながる分析に必要な数値などを把握できるソリューションも提供しています。更に、RMGT コンソーシアム (RMGT-CSPI) により、オフセット印刷機を保有されている印刷会社様の工場全体のスマートファクトリー化や SDGs 達成をパートナー企業とともにアシストしています。

印刷オペレーターの負担を低減する自動運転機能

「スマートアシストプリンティング」は、画面のワンタッチ操作でインキプリセットからブランケット洗浄、版交換、テスト刷り、見当合わせ、濃度調整、本刷りまで、複数ジョブの自動連続印刷が行える機能です。インキプリセット、ブランケット洗浄、刷版交換の工程が終了すると自動でテスト刷りへと移行します。テスト刷りでは、インラインで印刷物の品質管理が行える印刷品質管理システム PQS-D と連動。用紙を抜き取らずに見当と濃度を合わせ、見当と濃度が本刷りの基準値に入れば本刷り印刷が始まります。本刷り印刷中も PQS-D により印刷物の品質検査を行うとともに、濃度の自動調整と見当状態を監視します。



印刷会社様の将来を見据えたスマートファクトリーの構築をサポート

RMGT は、基幹システム、ワークフローシステムと連携させるシステムを提供し、お客様の既存機器やこれから導入する機器との連携に必要なシステム構築をサポートしています。それぞれ得意分野を持つパートナー企業と協業し、各種システムとの連携を進めています。これにより、印刷会社様の経営、印刷現場、営業を初めとする経営情報の見える化・数値化を図り、会社全体のオペ

レーションの効率化や業務改善による生産性の向上、全体最適化に寄与するスマートファクトリーの構築をサポートしています。

●RMGT が提供する連携のシステム

①プレスインフォメーションエッジ

ジョブの受け取り、稼働状況の送信等、基幹システムと自動で連携するシステム。プレスインフォメーションクラウドへの稼働状況の自動配信を行います。

②プレスインフォメーションクラウド (PIC)

工場内の複数の印刷機をネットワークにつなぎ、機械の稼働状況や生産性データ・指標をインターネットのクラウド上に自動で集約して一元管理します。また、PIC は基幹システムから受け取った JOB データの内容に応じて印刷 JOB 順序の最適化を実現します。更に、PIC は自動搬送ロボット (AGV) へも動作指示を出すことができる為、工程間の印刷用紙や印刷物の自動搬送によるオペレーターの負荷軽減と人手不足に対応します。

③プレスインフォメーションターミナル

ジョブの受け取り、稼働状況の送信等、基幹システムと自動で連携するシステムで、他社機との接続も可能。プレスインフォメーションクラウドへの稼働状況の自動配信を行います。



SDGs 達成を目指す印刷会社様をアシスト

RMGT コンソーシアム (RMGT-CSPI) は、SDGs の達成を目指す印刷会社様をパートナーシップでアシストします。この取り組みは、印刷会社様が抱える多岐にわたる課題に対して、印刷資材、印刷関連機器、周辺装置、システムエンジニアリングなどに携わる企業の他、印刷業以外の異業種の様々な企業が業界の垣根を越えて連携することで、新たな価値を共創していきます。

RMGT-CSPI では、「工程間連携」「自動化・省力化」「安全」「環境」の4つのカテゴリーを設定し、パートナー企業による共創でお客様の課題に対するソリューションをご提案します。印刷会社様の工場内の生産活動全般に対する SDGs 達成のためのソリューションを提案・具現化し、お客様に寄り添いながら課題を解決・サポートします。

埼玉県印刷工業組合は、昭和33年に設立され、本年で66年目となりますが、近年の低迷する経済情勢と中小印刷業の厳しい状況の中、埼玉らしい健全な組合基盤確立のため、研修会・委員会活動・福利厚生充実を積極的に展開しています。2020年、工組の新しい価値創造に向けて様々なアイデアや中長期的な戦略を考える「グランド・デザイン室」を立ち上げて活動しています。

■ アートカレンダー事業



アートカレンダー事業は、社会福祉法人みぬま福祉会 KOBO-SYU 様と共同で、社会に障害のある人たちのアートを発信し、社会と人をつなげるための活動です。印刷組合が中核となり国や地域の行政だけでは埋めることの出来ない課題を微力ながら解決できないかとの着想から、「現代アートにふれて暮らしを豊かにする」を通じて、性別・国籍・年齢・身体・意識の違いによる課題をクリエイティブに解決し、ダイバーシティ社会実現への一助となることを目的としています。

同カレンダーでは、障害を持つ150名のマイノリティーアーティストの中から13の作品(表紙+12ヵ月分)を選び、カレンダーの絵柄に採用しています。名入れ形式で販売した収益はアーティストに還元し、印刷工業組合としても、印刷・加工・名入れ・資材の調達など各分野のスペシャリストと連携して取り組むことで、適正なコストで作品を提供することができます。



■ リニューアル機関誌『MOVING ON』

他業界へのインタビューも掲載、また埼玉県内の地域紹介もしております。Vol.1の表紙は国内外で活躍されているセカイダイスケ氏に機関紙リニューアルのコンセプトである『MoveOn 太陽と月』 MoveOn (動き出す)事で常識を覆して新しいものを生み出そうというテーマで書き下ろしていただいたオリジナルアート作品です。また、Vol.2からは表紙に障害を持つアーティストのアート作品を採用しています。



■ グランド・デザイン室

「グランド・デザイン室」は2020年、工組の新しい価値創造のアイデアを生み出す場として発足しました。アートカレンダー事業や中長期的な組合事業計画の策定、最新技術の情報収集と研究を行っています。

埼玉県印刷工業組合 事務局

〒330-0802 埼玉県さいたま市大宮区宮町4丁目36-4-204
TEL 048-642-0414 / FAX 048-729-7161
URL <https://www.saipia.net/>



さあ、始めました。全青協カポッドキャストによるこそ！
私は、全国青年印刷人協議会の議長を拝命しております。
大阪の新星印刷株式会社、西岡天芳です。

さて、今回は、今期の全青協活動テーマ「地域変態計画
～アツギベンチャーが未来を変える～」についての、「ア
ツギベンチャー」について深ぼってみましょう。

昨今、巷でもよく耳にする「ベンチャー」という単語。
ベンチャービジネス、ベンチャーキャピタルなど。なんとなく
「起業」と同義語かな? と思っていらっしゃる方もいらっ
しゃるのではないのでしょうか。また、これに近い言葉として、
最近よく耳にするのが「スタートアップ」ではないでしょうか?
この二つの違いとは??

スタートアップ企業とベンチャー企業はどちらも「新しい
事業に取り組む企業」であり、似た言葉として捉えられま
すが、両者にはビジネスモデルや出口戦略などの違いが
あります。スタートアップ企業が今までにない新しく革
新的なビジネスを生み出すのに対し、ベンチャー企業は既存
のビジネスモデルを行う場合もあるのが特徴です。出口
戦略についても、スタートアップ企業が短期的にM&Aや

IPOを目指すのに対し、ベンチャー企業は中長期的に黒字
の継続を目指すため、経営のスピード感も異なります。

ベンチャー企業は既存のビジネスモデルを活用して収
益性を高め、着実な成長を目指す企業です。安定した経営
を前提としており、成長スピードは緩やかですが、長期的に
じわじわと右肩上がりの成長を続けていきます。組織全体
もバランスの良い人材で構成し、無理のない社内プロセス
によって成長を目指します。

我々、印刷業界には長寿企業が数多く存在し、2代目以降
のアツギが多数いらっしゃいます。そこで今期の全青協
では、自社、そして業界のこれまでの取り組みを大切にし
つつ、先代から受け継いだ価値を、時代に合わせてアップ
デートしながら、新しい事業を創出する。そんな「アツギ
ベンチャー」となる変態を輩出する場になっていくことを
目指し、活動していきます。

このページにポッドキャストのQRコードを掲載しており
ますので、是非ともアクセスして全青協の活動を身近に
感じてみてください! それでは、続きは、カポッドキャストで。
さよ～なら～。



雇用保険制度 現在の制度と今後の主な見直し内容について(1)

株式会社 GIMS 特定社会保険労務士 小倉 絵里

<https://gims-consulting.com/>

雇用保険制度では(1)失業等給付、(2)育児休業給付、(3)雇用保険二事業を担っています。(1)、(2)については事業主と労働者が保険料を折半して納めていますが、労働者が失業した場合や教育訓練を受ける場合、また育児休業をした場合に給付を支給する等の事業が行われています。(3)については事業主からの保険料によって、雇用安定事業等例えば「雇用調整助成金」の助成金事業の運用が行われています。

現在は、週の所定労働時間が20時間未満の労働者や同一の事業主に継続して31日以上雇用される見込みがない労働者、また昼間学生等は対象になりません。

人手不足の問題が顕著になり、ダブルワークを希望する労働者は今後ますます増加してくると思われそうですが、雇用保険の仕組みは複雑です。複数事業所で雇用される労働者の雇用保険適用については「その労働者が生活を維持するのに必要な主たる賃金を上げる1の雇用関係についてのみ、被保険者となる」とされており、労働者が65歳以上でない限り、2つの事業所の労働時間を合算して適用する事はできません。

現状では、週の所定労働時間がA社では10時間、B社でも10時間の合計20時間の週所定労働時間で勤務していても、合算されない為雇用保険の加入対象者になりません。また、65歳以上の労働者については特例的に本人の申出により2つの事業所の労働時間を合算して適用することが可能ですが、一方の事業所を退職してしまった場合に週の所定労働時間が20時間を下回ると被保険者ではなくなってしまいます。(図1)

その様な課題を解決する為、ダブルワーク等働き方の多様化に合わせた制度の見直しが行われました。

○雇用保険の適用対象者を週の**所定労働時間が10時間以上**の労働者まで拡大する。 [施行期日：2028年(令和10年)10月]

失業給付(基本手当)の受給資格等にかかる「被保険者期間の算定基準」も次の様に見直されます。

現在：賃金の支払基礎日数が11日以上又は賃金の支払基礎となった労働時間が80時間以上ある場合を1月とカウントする

改正後：賃金の支払基礎日数が6日以上又は賃金の支払基礎となった労働時間が40時間以上ある場合を1月とカウントする

また「失業認定基準」も次の様になります。

現在：労働をした場合でも、**1日の労働時間が4時間未満**にとどまる場合は失業日として認定する

改正後：労働をした場合でも、**1日の労働時間が2時間未満**にとどまる場合は失業日として認定する

雇用保険適用拡大により、新たに雇用保険の加入者となった場合も給付基準は現在の被保険者と同様に、失業給付(基本手当)、教育訓練給付、育児休業給付等が支給されます。

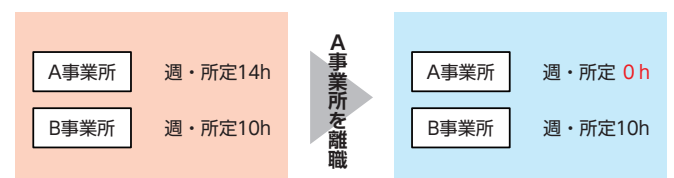
○その他の見直しとして、「自己都合による離職の場合」の失業給付(基本手当)受給の際の給付制限期間の変更が予定されています。 [施行期日：2025年(令和7年)4月]

現在：正当な理由のない自己都合離職者に対しては、待期間満了の翌日から原則2ヶ月(5年以内に2回を超える場合は3ヶ月)の給付制限期間がある
※ハローワークの受講指示を受けて公共職業訓練等を受講した場合は、給付制限が解除される

改正後：原則の給付制限期間を2ヶ月から1ヶ月へ短縮する(但し、5年間で3回以上正当な理由のない自己都合離職の場合は、給付制限期間は3ヶ月)
※離職期間中や離職日前1年以内に自ら雇用安定及び就職の促進に資する教育訓練を行った場合は、給付制限が解除される(図2)

労働者が安心して再就職活動を行えるようにする観点から、この様に給付制限の見直しが行われました。

【図1】 2以上の雇用関係にある65歳以上の労働者の雇用保険の適用

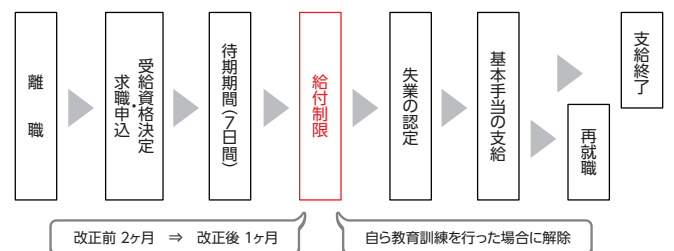


AとBを合算して20時間以上であるため、労働者の申出を起点として雇用保険を適用

Aを離職し、20時間を下回るため、
・Aで支払われていた賃金額を基礎として給付し、(※高年齢求職者給付金として一時金を給付)
・被保険者ではなくなるため、以後、保険料を徴収しない

【図2】 基本手当の受給手続の流れ(正当な理由のない自己都合退職)

※2025(令和7)年4月施行予定



参考：令和6年1月12日職業安定分科会雇用保険部会(第193回)参考資料より



2024年

暑中お見舞い

全印工連副会長
東京工組副理事長

福田 浩志

株式会社ウエマツ 代表取締役社長
〒171-0052 東京都豊島区南長崎 3-34-13
TEL 03-3953-1101
<http://www.uematsu-p.com/>

全印工連常務理事
東京工組副理事長

田 畠 義 之

株式会社久栄社 代表取締役社長
〒104-0033 東京都中央区新川 1-28-44
TEL 03-3552-7571
<https://www.kyueisha.com>

全印工連副会長
東京工組副理事長

橋 本 唱 一

文唱堂印刷株式会社 代表取締役社長
〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町 3-37
TEL 03-3851-0111



佐々木 幸夫

コダック合同会社 職務執行者
〒140-0002 東京都品川区東品川 4-10-13
TEL 03-6837-7285
<https://www.kodak.com/ja/>

全印工連理事
愛知工組副理事長

箕 浦 靖 夫

名鉄局印刷株式会社 代表取締役社長
〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南 3-13-23
TEL 052-561-3271

全印工連会長
東京工組理事長



瀬 田 章 弘

弘和印刷株式会社 代表取締役
〒123-0855 東京都足立区本木南町 15-17
TEL 03-3880-6446
<https://www.kowax.jp/>

印刷の
トータルコーディネイト
承ります

Spri service
エスプリサービス
清水印刷株式会社
和歌山市東高松3丁目8番14号 TEL (073) 444-1414



全印工連副会長
大阪工組理事長



高 本 隆 彦

大興印刷株式会社 代表取締役
〒552-0007 大阪府大阪市港区弁天 1-2-1
大阪ベイタワーオフィス 16階
TEL 06-6577-2205 Fax 06-6577-2207
<https://www.daiko-printing.co.jp/>

暑中お見舞い
申し上げます



代表取締役社長
山口県印刷工業組合 理事長
藤田 良郎
Yoshiro Fujita

〒752-0927
山口県下関市長府扇町9番50号
TEL・083-249-1100 (代)

全印工連顧問
東京工組顧問

水 上 光 啓

MIC 株式会社 代表取締役会長
〒160-0023 東京都新宿区西新宿 5-14-3
TEL 03-5354-3340



申し上げます

(順不同)

FUJIFILM
Value from Innovation

富士フイルムグラフィックソリューションズ株式会社

代表取締役社長

山田 周一郎

〒106-0031 東京都港区西麻布二丁目26番地30号
富士フイルム西麻布ビル TEL: 03(6419)0300

<https://www.fujifilm.com/ffgs/ja>

RICOH
imagine. change.

執行役員
デジタルサービス企画本部副本部長
兼PP事業部長

泥谷 謙司

リコージャパン株式会社

〒108-0023 東京都港区芝浦4-2-8 住友不動産三田ツインビル東館
<https://www.ricoh.co.jp/pp>

全印工連常務理事
広島工組理事長

中本 俊之

広島県印刷工業組合
〒733-0035 広島県広島市西区南観音1-1-22
TEL 082-293-0906

全印工連相談役
愛知工組顧問

鳥原 久資

株式会社マルワ 代表取締役
〒468-0011 愛知県名古屋市中天白区平針4-211
TEL 052-802-4141

全印工連理事
新潟工組理事長



遠山 亮

株式会社 DI Palette 代表取締役社長
〒950-8724 新潟県新潟市中央区和合町2-4-18
TEL 025-382-7400

SCREEN

有賀 賢一

株式会社 SCREEN GP ジャパン 代表取締役社長
〒135-0044 東京都江東区越中島1-1-1
ヤマタネ深川1号館
TEL 03-5621-8266

全印工連常務理事
山形工組理事長

大風 亨

株式会社大風印刷 代表取締役
〒990-2338 山形県山形市蔵王松ヶ丘1-2-6
TEL 023-689-1111

大塚商会



POD推進部
〒102-8573 東京都千代田区飯田橋2-18-4 6F
TEL 03-3514-7625

全印工連常務理事
岐阜工組理事長

大洞 正和

大洞印刷株式会社 代表取締役会長
〒501-0466 岐阜県本巣市下真桑290-1
TEL 058-320-5123
<https://www.obora-pri.co.jp/>

全印工連常務理事
東京工組副理事長

富澤 隆久

富沢印刷株式会社 代表取締役社長
〒116-0003 東京都荒川区南千住3-4-4
TEL 03-5615-1221
<https://www.10330.co.jp>

株式会社 崑崙印刷



代表取締役社長

平川 哲也

Enhanced Color Gamut Ink
Ka|e|i|do|Ink

URL : <http://www.konronprint.com>
e-mail : konron@konronprint.com

全印工連理事
宮崎工組理事長

村川 保訓

宮崎紙工印刷株式会社 代表取締役
〒880-0912 宮崎県宮崎市大字赤江字飛江田931
TEL 0985-78-2324

印刷ビジネスの課題を共に解決



受注拡大

デジタルを活用した受注体制の強化で顧客拡大を支援

印刷物への多様な付加価値創造で他社との差別化を支援



生産性向上

自動化やスキルレスでの作業性で効率化&工数削減

生産プロセスのスリム化で生産性&利益率向上



環境配慮

SDGsや環境課題解決への取り組み支援

働き方改革など事業継続に必要な社内環境構築支援

多様な視点で
印刷の未来をデザインする
RETHINK WHAT'S POSSIBLE

コニカミノルタ ジャパン株式会社

つながるプリントラボ

検索

プロフェッショナルプリント事業部 〒105-0023 東京都港区芝浦1-1-1 TEL. 03-6311-9061

RICOH
imagine. change.

RICOH BUSINESS BOOSTER

私たちは“仕事を創る”、“仕事を回す”、“仕事が見える”の3つの視点から、印刷事業者のビジネス拡大をさらに支援するための活動『RICOH BUSINESS BOOSTER』を推進しています。

お客様ごとの課題に真摯に向き合い、時には共創活動を通じて新たな価値を生み出しながら、それぞれの解決策を導き出していきます。

リコージャパン株式会社 〒108-0023 東京都港区芝浦4-2-8 <https://www.ricoh.co.jp/>

Horizon
Change the focus

ホリゾン・ジャパン株式会社
www.horizon.co.jp

▶使いやすく進化した無線綴じ製本機

無線綴じ機 ICE BINDER BQ-300

新世代15インチパネルHorizonXUI(ホリゾンクロスユーアイ) 初搭載。製本のノウハウと自動化技術を融合し、オペレーターの経験や能力に頼ることなく簡単に製本作業を行うことができます。



ICE BINDER

SCREEN

印刷市場に革新をもたらす。



フルカラーバリアブルプリンティングシステム

Truepress JET 560HDX

詳しくはこちら



株式会社 SCREEN GP ジャパン 本社/03(5621)8266(代)
〒135-0044 東京都江東区越中島一丁目1-1 ヤマトネ深川1号館

株式会社 SCREEN グラフィックソリューションズ
www.screen.co.jp/ga

RMGT-CSPI

ともに創る印刷の未来



RMGT-CSPIが
SDGs達成をアシスト

印刷会社のSDGs達成のためのソリューションを提案、具現化するRMGT-CSPI。
各分野の企業が連携し、お客さまに寄り添いながら課題を解決・サポートします。

RMGT リョービMHIグラフィックテクノロジー株式会社

〒726-0002 広島県府中市鵜飼町 800-2 TEL 0847-40-1600

RMGT-CSPIの詳細については、こちらをご覧ください。

<https://www.ryobi-group.co.jp/graphic/cspi/>



お客さまの

「踏み出す力」になる。

価値ある情報、豊富な知見、確かな技術で。

さまざまな現場課題、経営課題を、どう解決するか。
これから進むべき方向性を、どう見極めるか。
その答えは、一つとは限りません。だからこそ、
信頼できるパートナーと共に、ベストな道を選び
たいもの。FFGSは、広範なネットワークを
活かした実践的な情報と、一社一社の戦略や
課題に合った効果的なソリューションで、
お客さまの「最良の選択」をサポートします。
そして、長年培ってきた知見と技術力を
活かし、変革の一步一步をしっかりと支え、
新たな未来へ向け、共に前進していきます。



一緒に答えを導き出す会社へ。

FUJIFILM
Value from Innovation

富士フイルムグラフィックソリューションズ株式会社



この印刷物は、CSR
に取り組み印刷会社が
製作した印刷物です。

P-00082



この印刷製品は、環境に配慮した
資材と工場で製造されています。

P-B10026